

平成16年1月28日

素粒子原子核研究所長 殿

高エネルギー委員会

日米科学技術協力事業に関する要望

日米科学技術協力事業は、1979年の発足以来、数々の高エネルギー実験および関連する開発研究において成果を上げるとともに、数多くの若手研究者を育成してきた。本事業が今後とも我が国の高エネルギー物理学研究の発展に大きな貢献をするよう、高エネルギー委員会では本事業の在り方について意見交換を行った。委員の意見を以下にまとめる。

- 高エネルギー分野の戦略的資金として、他の競争的資金とは一線を画した予算配分をする。即ち、長期的視点で高エネルギー分野全体の将来を考えて重点課題を選定し、予算を重点的に配分する。
- 短期的に成果が期待できる課題と、長期的戦略に基づく課題のバランスに配慮する。
- 成果の公開を積極的に行い、本事業の意義を広報する。
- 米国の施設を利用する形態の共同研究だけでなく、日本の加速器施設を利用した共同研究をも推進し、日米双方向の人材交流を促す。
- 課題の提案・審査・評価の過程が、高エネルギー研究者はもとより他分野の研究者からも見えるよう、透明性を高める。
- 採択課題については、これまで以上に厳しい評価を行い、その後の審査・予算配分に反映させる。

研究計画委員会が上記の観点に基づいて重点分野の設定、研究費配分を行うとともに成果公表を促進し、評価委員会が評価に当たることを要望する。